

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 金沢市立十一屋小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒921-8106  
金沢市十一屋町3番45号

E-mail : \_\_\_\_\_

Website : http://cms.kanazawa-city.ed.jp/juuichiya-e/

児童生徒数：男子 226 名 女子 232 名 合計 458 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( 福祉 )

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

[はじめに]

本校は、金沢市の東南部寺町台に位置し、明治9年4月に在明小学校として開校、昭和34年4月十一屋小学校と改称し現在に至る。全校児童数は458名、教職員は33名である。

学校の東に流れる犀川そして医王の山並みは四季折々の表情を見せ、子どもたちにとって自然を身近に感じられる環境にある。

一昨年度、ユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

## 「人と地球を大切にし、共につながり合おう！」 ～人・環境・地球の学びを通して～

### 1 ユネスコスクールとしての取組

本校では、「人と地球を大切にし、共につながり合おう！」を学校テーマとし、学年ごとに十一屋校区や金沢にある様々な素材と関わりながら、環境・国際理解・伝統や文化に関する学習に取り組んでいる。これらの学習を通して、金沢に学び、金沢から世界へ発信する人材や、持続可能な学校の文化として根付いていくことをめざしている。

#### (1) 1年生（生活科）

「金沢の遊びを知ろう」（地域教育）

子どもたちから話を聞くと、幼稚園や保育園の時にけん玉を経験していた児童は意外と多かった。ただ、こまや羽根つき、お手玉、だるま落としなどに関しては、名前は知っているもののやったことがない児童が多かった。そこでまずは、上手な友達からやり方や技、こつを教えてもらって遊んだ。次に、もっと上達したいということで、地域の昔遊びの名人を招いて教えていただいた。遊びの経験で終わるのではなく、地域の方々とのふれあういい経験になった。



#### (2) 2年生（生活科）

「十一屋ってどんな町かな」（地域教育）

生活科を中心に、自分たちの町を探検することで、校区の自然に親しむと同時に、町の人と様々な関わりを持ち、自分たちの町の良さに気付かせたいと考え、本テーマを設定した。

まず、校区内のお気に入りの場所や人を伝え合った。その後、子どもたちがミニ先生となり、地域のことを紹介しながら探検を進めていき、クラスごとに大きな十一屋マップを作成した。また、図書館司書の先生に、「芋掘り藤五郎」など地域の民話の読み聞かせもしてもらった。



これらの活動により、地域の人や場所に親しみを持つことができ、関わりを深めることができた。

#### (3) 3年生（総合的な学習の時間）

「金沢の伝統を知ろう」（地域教育）

茶の湯文化が息づく金沢市では和菓子作りが盛んであり、十一屋界隈においても複数の和菓子店が軒を並べている。本市を代表する和菓子作りや金沢城近辺に目を向け、それに携わる人々や地域の様子を調べることで、自分と地域との関わりに関心をもたせたいと考え、本テーマを設定した。

前期は金沢城公園近辺を遠足のコースの一部に設定して、自分たちの住む金沢の良さや伝統に関心をもたせたいと考え、本テーマを設定した。

後期は町の名前の由来を調べたり、自分たちの住む地域のことをよく知る方を招いて昔の校区の様子を聞いたりしたことで、僅かではあるが、郷土への親しみが増したように



感じている。

(4) 4年生(総合的な学習の時間)

「地域の高齢者の方と交流し、よさを学ぼう。伝えよう。」(福祉教育)

大きな団地をかかえる本校区には、高齢者、外国人、一人暮らしの人、あるいは障害を持つ方々が暮らしている。高学年の仲間入りをし、少しずつ周りのことが見られるようになってきている児童たちは、その存在に気付き始めている。いろいろな立場の人たちに目を向け、お互いの違いを認め合い支え合う大切さに気付き、共に生きる意味について考える機会となるよう本テーマを設定した。

授業では福祉の意味(交流を通して自分を含めたみんなの幸せを求める活動であること)ボランティアの意味を知り、自分に何ができるのかを探した。そして、自分たちの周りにはいる高齢者の方に対してどのような活動をするかよいのかを考えた。その後、地域の高齢者の方をお呼びして、自分たちのできるようになったことを伝えたり、一緒に活動したりすることを通して言葉を交わし、たくさんのことを学ばせていただいた。高齢者の方に楽しんでもらうとともに、自分たちも楽しいひとときを過ごすことができたと思われる。その後も、感謝の手紙やクリスマスカード、年賀状などでつなぐ深めることができた。



(5) 5年生(総合的な学習の時間)

「身近な環境を探ろう」(環境教育)

犀川・浅野川の2つの流れを有する金沢は、水の豊かな町である。かつて、寺町台・小立野台地の河岸段丘を形成するほどの暴れ川であった犀川が、本校の眼下に流れる。子どもたちにとって身近なこの犀川について調べたり、交流したりする活動を通して環境に目を向けさせたいと考え本テーマを設定した。

授業では、まず犀川河川敷を散策し課題をもつところからスタートした。その課題を解決するために、再度、河川敷に出かけいろいろな方に聞き取りをしたり、本やインターネットを活用して調べたりして、現在の犀川の環境について考えさせることができた。植樹体験やエ



コチーム犀川の方々との交流により、一層理解を深めることができたように思われる。これらの学び

を通して、犀川の環境保護を推進する活動に主体的に取り組もうとする姿や日本全体の環境問題につ

いて考えようとする姿が見られるようになってきたことは、大きな成果だと捉えている。

(6) 6年生(総合的な学習の時間)

「開こう世界のとびら」(国際理解教育)

古都金沢の風情を求め、年間多くの外国人観光客が本市を訪れている。また、校区の団地には留学生も多数居住し、本校の子どもたちにとって外国の方々とは接する機会が少なくない。金沢の歴史や伝統を踏まえ、本学習が国際社会に目を向ける第一歩なればと願い本テーマを設定した。

授業では、自ら興味をもった国の文化や歴史等について調べ、理解を深めるとともに、国際交流員の方(ベルギー、アメリカ、韓国)をお招きして交流を深めた。外国の方の自己紹介を兼ねた各々の国についてお話を聞くコーナーでは興味津々な表情の子どもたちが数多く見られた。また、子どもたちから金沢の遊びや文化を紹介し共に遊ぶ場面では、臆することなく自然に、楽しそうに活動する子どもたちの姿が見られ、外国の方と交流する喜びを感じさせることができたように思われる。



2 成果と課題

本校では、学年を追うごとに、校区→金沢→世界へと視野を広げるようテーマを設定し、学習を展開した。地域の自然や人、文化と関わりながら学習を進める中で、地域や地域の人々と直接関わる機会を持ち、子どもたちは実感を伴って学ぶことができた。その実感が、人・地域・環境・地球を見直したり、これからの自己の行動や生き

方について考えたりすることにつながっていた。また、学習したことの発信する場として、今年度、4年生では、校区のお年寄りを招いて交流会を行った。しかし、他の学年ではクラスや学年内での発信に留まった。来年度は、各学年での取り組みについての発信について、さらに計画的に位置づけ、学びをまとめたり、表現力を高めたりすることができるようにしていきたい。さらに、昨年度作成したESDカレンダーに今年度の実践を加え、年度を追うごとに子どもたちのESD教育がさらに充実したものとなるよう取り組んでいきたい。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )